

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470800929	事業の開始年月日	平成16年4月16日
		指定年月日	平成22年9月1日
法人名	有限会社 ビリーブ		
事業所名	リングリング		
所在地	(〒236-0051)		
	横浜市金沢区富岡東6-4-29		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	5名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和2年1月6日	評価結果 市町村受理日	令和2年3月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当ホームは古い民家を借り入れ横浜とは思えない住宅地にありタイムスリップした雰囲気です。</p> <p>町内の皆さんにも当ホームを認知していただき運営推進会議・避難訓練等多数の方々に参加くださり、お祭りの時は席を用意していただいたりしています。</p> <p>5人という少ない人数なので一人一人に合わせた対応ができ、のんびり過ごしてもらっています。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年1月15日	評価機関 評価決定日	令和2年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

この事業所は、京浜急行の京急富岡駅から徒歩で3分ほどの、駅近の路地裏にある。古民家をそのまま利用してグループホームに使用している。緑がいっぱいの細い路地裏にあるこじんまりしたグループホームだが、昔ながらの家庭的な雰囲気をそのまま残した家族的な事業所である。

【理念に基づいたケア】

法人名ビリーブは人との信頼関係を大切にしたいという思いが込められ、グループホーム名「リングリング」はリング二つが合えば無限大の力が発揮できるという意味が込められている。信頼関係に基づき長年勤務している職員が多く、家庭的な雰囲気がある。利用者にも「ダメなことをダメと言えるまで信頼関係を築こう」という理念の下、職員は利用者の思いを常に把握することに努めている。

【食事の楽しみ】

利用者の一番の楽しみは食事であるという管理者の考えから、設立以来手作りの食事にこだわっている。メニューは季節感や彩りを考え職員が作り、食材は家庭同様できるだけ旬の素材を安く仕入れるため買い物に出かけている。夏場は敷地内の畑で作るトマトやキュウリ、インゲン、ブロッコリーなど旬の野菜が食卓に上る。ラーメン、うどんなどの麺類や、お節料理やひな祭りなどの行事食も提供しており、献立の履歴が一見して確認できるように3食とも、すべて写真に収め記録をとっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	リングリング
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居時には基本理念を利用者・ご家族様に説明し、職員はその理念に基づいて行動しています。	設立時に作った理念をわかりやすい言葉に置き換え今ある理念を作った。事業所の名前もリングとリングをつなぎ合わせ、無限大の力で助け合っていこうと言う理念に基づいて名付けられた。職員は自分のファイルや業務日誌の裏表紙に理念を貼り、日々確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の一員として町内会主催の防災訓練や清掃活動、お祭り等の行事に参加している。	町内会に加入し秋祭りや草むしり、避難訓練に利用者と共に参加している。近所の方から不要になったタオルやひざ掛けを頂いたり、散歩の折に声をかけてもらったりする。近隣の商店で買い物することを心掛けている。9月の町内会の避難訓練に利用者と共に参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現時点ではあまり貢献はできていないが、地域の方々の相談も受けることはできる旨運営推進会議等の場で、伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、ホームの行事や近況報告を行っている。地域の方や包括の職員との意見・情報交換の場としてサービス向上に活かしている。また、ご家族の参加により直接的な意見や質問をいただく場となっている。	偶数月に町内会関係者や民生委員、利用者家族、地域包括支援センター職員などが参加して開催している。業務報告や行事のことが話題となることが多く、地域包括支援センター職員からはアドバイス等をいただくこともある。ネコの多頭飼育などの地域問題を話す場にもなっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	内部での判断に困った時には運営推進会議で相談している。生活保護の人のことは随時保護課の担当者と連絡を取っている。	生活保護受給者が多いので区のケースワーカーとは緊密に連絡を取っている。グループホーム協議会には行政職員が必ず出席しているので、できるだけ研修等には参加するようにしている。保健所の研修には毎年参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止の基本法令遵守マニュアルを職員全員が把握し研修・勉強会での内容を理解の元に生活支援を実践している。日中玄関の施錠はせず、人感センサーを設置している	「身体拘束と虐待ゼロ委員会」を3か月毎に職員全員参加の定例会後に開催し、記録を残している。4月には県の自己点検シートを使い、意識を見直す所から始めた。また外部研修に参加した際は伝達研修を行っている。玄関は人感センサーでチャイムが鳴るようになっており、日中は開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	5項目の虐待の事例などを業務日誌・掲示場所に掲示し職員全員が共通認識するとともに3ヶ月に1度定例会議にて勉強会をして絶対に虐待を起こすことのないよう職員一人一人が心掛けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員が講師になり、内部研修をしている。又、必要に応じ区役所の担当、包括との相談をして個別支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族様には面接時に十分な説明をして納得・理解してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所時に、近況報告や状況変化について報告し、その都度ご家族の意見や要望を聞いている。すぐに対応の変更が必要な時は電話で報告している。	生活保護受給者には年に1回ケースワーカーとの面談がある。利用者の家族からは来所時に話を聞くようにしており、個々の希望にはすぐに対応できるようにしている。希望を口にする利用者は少ないが、積極的に希望を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員全員参加による定例会議を開催して職員の意見や提案を聞いている。毎日連絡ノートを活用している。緊急性のある場合は緊急会議を行っている。	毎月の定例会議にはほとんどの職員が参加している。長期勤務の職員が多く、自分たちで話し合っ改善していることが多く、常に話し合う土壌ができています。連絡ノートや定例会議は主に利用者の情報を共有する手段として機能している。直近では薬箱の表紙の記入方法などを改善した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の会話、会議等で職員の希望等を聞き、希望に添えるように努力すると共に若干のベースアップ。有給休暇とは別にリフレッシュ休暇を設け、無理のないシフトを作成している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合ったレベルの研修を希望により受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	金沢区のグループホーム協議会に毎回参加し、他ホームとの意見交換をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生き方を尊重しながら、希望や意向の言葉を引き出せるよう努めている。言葉に出せない不安な気持ちを汲み取るよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安全と安心を求める家族の気持ちを理解し、できる限り不安な気持ちを取り除き要望に応えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって何が一番必要な支援かを見極め、本人と家族の希望に応えるための最良の支援を提供していくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員本位ではなく、利用者主体の生活作りに努めていきたい。そのために利用者本人の意向を重視した生活になるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に安心していただけることを先ず心掛け、コミュニケーションを良くし、ご本人の生活の場を作っている。又、月に一度は近況報告と写真を送付し関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームにおける日常生活や行事・催し等のスナップ写真とともにその都度、情報提供を行っている。また、利用者のご家族とコミュニケーションを深め、各利用者にあった支援をしている。	知人等の来訪は少ないが、近隣の方となりみになっており、散歩などが楽しみとなっている。おはじき等の昔懐かしいゲームやペットボトルの蓋を利用した絵や文字合わせのゲームなどを行う。故郷の話をしたりストリートビューで住んでいた場所を見たりすることもある。調査当日は懐かしい昭和のカラオケを皆で歌っていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流できるように歌の時間を設け皆で一緒に楽しめるように努めている。又、計算や間違い探し等のプリントをお互いに協力し合い問題を解決したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も連絡は取るが、次第に疎遠になってしまう。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が利用者の日常会話や様子観察に努め、その対応の中で利用者の意向を引き出すよう努め必要な時は職員同士の意見情報交換している。	日常のマンツーマンでケアしている時に個別に話すことが重要と考え重視している。会話で得られた情報はモニタリングやカンファレンスで共有している。トラブルの原因を突き止めることで本人の思いがわかることもある。発言の少ない利用者には顔色や表情で判断することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、家族からの聞き取りを参考に、本人とのコミュニケーションの中から生活歴を把握していくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の利用者の様子・状況を観察、把握し、一人一人が生活し暮らしやすいように努め取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議にて利用者の一人一人の状況確認を行い介護計画更新時に、モニタリングとアセスメントを職員全員で行っている。本人とご家族の意向も、その都度聞き取りを行っている。	介護計画の支援内容について実施の有無を毎日「評価表」に○×で記入している。毎月の定例会議で利用者全員のカンファレンスを行って、モニタリングとしている。6か月ごとに全職員の意見を「アセスメントシート」に記入して、計画作成担当者が確認し介護計画書の原案を作成している。家族にも来所の折に希望を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者、個々に日々の様子をケース記録に記入、申し送り、連絡ノート定例会議で情報の共有・統一を行い反映させた対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに対応できるように必要な支援を職員全員で話し合い取り組んでいる。また、その都度ご家族への報告連絡を取っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のお祭りや消防訓練に参加。又、ホームの避難訓練に町内の方々に参加をお願いし非常時の協力を依頼している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院として湘寿クリニックの往診を定期的を受けている。場合によっては主治医の指示により疾患部位の専門医への受診を行っている。	全員が協力医の往診を受けている。整形外科や眼科などの専門医には家族や職員が付き添って行く。入院時にも職員が付き添うことが多い。協力医は24時間電話で対応してくれるので、緊急時には助かっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	湘寿クリニック（内科他全般）・エムズ歯科（口腔ケア）などの主治医と各利用者の状況を共有している。体調不良等の変化に応じ連絡を取り指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療の主治医と連携を取っている。また入退院時には付き添って病院との情報交換や相談に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「緊急時の意向確認書」の同意書と「重度化した場合の対応にかかる指針」をお渡しし、看取りを行わないこと、退去の要件等を説明している。要介護3以上の認定を受けた時は特養申し込みの説明を行っている。	入居時には階段や段差の多い住宅事情のため、説明し、日常生活に車いすが必要になった段階で退去してもらうことを説明している。「緊急時の意向確認書」にサインをもらい、看取りができないことを確認している。要介護3の認定が出た時点で特別養護老人ホームへの入所手続きを行うことになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作り職員が即時対応できるようにし緊急連絡網を作成、事態に備え、定期的な訓練も実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会に参加していただく訓練と職員・利用者さんだけの消防訓練を年2回以上行っている。消防の講習会への参加、町内会の避難訓練への参加により体制を作っている。	10月は夜間想定火災訓練を職員と利用者で行い、続けて11月にも同じ想定で地域住民9名と共に訓練を行った。利用者と共に避難にかかる時間を計測した。住民の方にはスプリンクラーの設備と火災報知機を見て安堵してもらった一方、初期の呼びかけの音が小さいという意見をもらった。玄関わきに備蓄用物置が設置され、水、食料、毛布、ラジオ、ランタン、カセットボンベ等が備えられている。また、備蓄の品目、数量、消費期限はリストで管理されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と呼ぶにあたって、基本的には「さん」付けで呼ぶが、ご本人の希望がある場合はその気持ちを汲んで希望に沿った呼び方をする時もある。居室に入る時、介助する時は必ずお声掛けをしている。	会話の中で掃除や洗濯たたみなど利用者の得意なことを見つけ、できる事を一緒にすることで自立を支援するようにしている。理念にもあるように信頼関係を築いた上で支援することを心掛けている。排泄誘導などは大きな声ではなく耳元で言うように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者とのコミュニケーションを取り、話を聞きその人に合った思いや希望を汲み取り大切にしていこう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者との会話の中で何を望んでいるかを把握し、利用者それぞれの希望に沿えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを極力入れ、その上で気候に合ったもの、脱着しやすく体に楽なものを選ぶように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が食事を一緒に食べ利用者の好み等を把握し、食べやすいように小さくしたり工夫している。ホームの畑で収穫した野菜を皆で食べ楽しく過ごせるようにしている	食事を利用者一番の楽しみと考え、手作りの食事にこだわっている。過去の献立が一見して確認できるように文字だけでなく、毎日3食とも写真を撮り材料と共に記録している。ラーメンやうどんなど利用者が好きな物も多く、正月はお節料理を作り喜ばれた。職員が手掛ける畑で取れたキュウリやトマト、インゲン、ブロッコリーなどが食卓にのぼる事もある。職員も同じ食事を摂り会話を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養を考えメニューを作り、利用者一人一人の食事量を把握し手作りで提供している。水分については定期時に提供している。夜間も各居室にポットを用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び毎食後口腔ケアを職員見守りで行い、主治医(歯科)の指示で利用者一人一人に合った口腔ケアの対応をすると共に必要に応じ義歯清掃等を職員が介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	昼夜とわず、個々の利用者に合わせてポータブルトイレ・リハビリパン・パッドを利用し、声掛け・見守りにより自立支援を行っている。	1階2階それぞれに1か所ずつトイレがある。自立の利用者がほとんどではあるが、失敗していることもあるので使用後は必ず職員が点検している。チェック表はないが職員が利用者の排泄間隔をすべて把握しているため、個別に声掛けを行い事前誘導している。歩行不安定の利用者は夜間ポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の排泄記録・日常の様子観察を行い、飲食・運動活動の把握を注意に気を配っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を設定して、強制ではなくある程度の入浴拒否を受け入れ、各利用者に合わせた入浴支援・介助を行い、楽しく会話をしながら入浴を実施している。	週に3回入浴を行っている。入りがたらない利用者無理強いすることなく、時間をかけたり、職員を変えたり、足浴や清拭に変更したりしている。しょうぶ湯やゆず湯の行事湯は楽しみにしている利用者が多い。入浴剤を使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝衣類は毎日洗濯し、寝具も常に清潔を保っている。冬場は湯たんぽを使用したり、トイレを暖房したりしている。居室にポータブルトイレを設置などをして安心して気持ちよく眠れるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受信後に受診ファイル、連絡ノート申し送りをし薬の内容を記入、報告等で職員間で共有し薬ケースも個別で薬の内容を明記し、確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の能力に応じ、役割として居室の掃除、洗濯物たたみ、新聞の袋作り写真の切り抜き等の他にも色々な作業をいただいている。又、レクリエーションとして歌の時間等を設けて楽しんでいただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日課とし天候や気温・利用者の体力・能力とあらゆる事を考え決めて外出支援をしている。その他にも町内のお祭りへの参加、年間行事で花見や遠足を実施している。	ほとんど毎日散歩に行っている。事業所の周辺も緑が多く路地裏なので車の心配がなく歩ける。車で買い物に出掛けることもある。秋祭りや遠足など、行事として出かける楽しみもある。縁側は日当たりが良く、毎日全員が日光浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームが行っているが、ご家族の同意であれば少額をお財布に入れ所持している。買い物は希望があれば職員と一緒に買いに行き、ご本人が満足できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により手紙や電話等で、ご家族との連絡を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除は欠かさず清潔を保ち、各居室の温度調節を行い、生活空間・季節感・年間の行事を大切に持てるように努めている。	昔ながらの古民家を改装しているので、段差やふすまなど、利用者には懐かしいたたずまいが残されている。居間はないが広めの縁側が居間代わりとなり、日中くつろげる場所となっている。庭や畑には出ることも少なくなっているが、季節感が味わえ、緑も多く落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ビングを共用、相互交流の場として使用利用している。利用者一人一人の決まった席も確保されている。独りになりたい時はそれぞれの居室で好きなように過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・テーブル・タンス等の家具、ポータブルトイレなど各利用者の機能動作に合わせ考慮した配置にしている。又、自宅より持ち寄った物をタンスの上等に飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	和室が多くそれぞれの部屋は広い。自宅から家具や位牌などを持ち込む利用者もいる。持ち物が少ない利用者には事業所の備え付けの家具やベッドを使用している。利用者はぬいぐるみやお誕生カード、写真等を思い思いに飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者に合わせ、ポータブルトイレの利用、肘掛け椅子、滑らない上履きなど、できる限り安全で快適な環境と共に声掛け・見守りによる自立支援をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

リングリング

作成日

令和 2年/ 3/20

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		大雨時の避難方法の確立	全員を無事に避難させる為の訓練が誰でもできるようにする。	事前に避難経路を確認しておく。 避難時の判断基準を決め、瞬時に判断できるようにするための避難訓練を行う	令和2年度中
2		人材不足の解消	職員の増員	インターネット等も利用し色々と募集をする	令和2年度中
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。